

広報 **あしや**

'73

第16号

小学校3年生～中学校3年生用

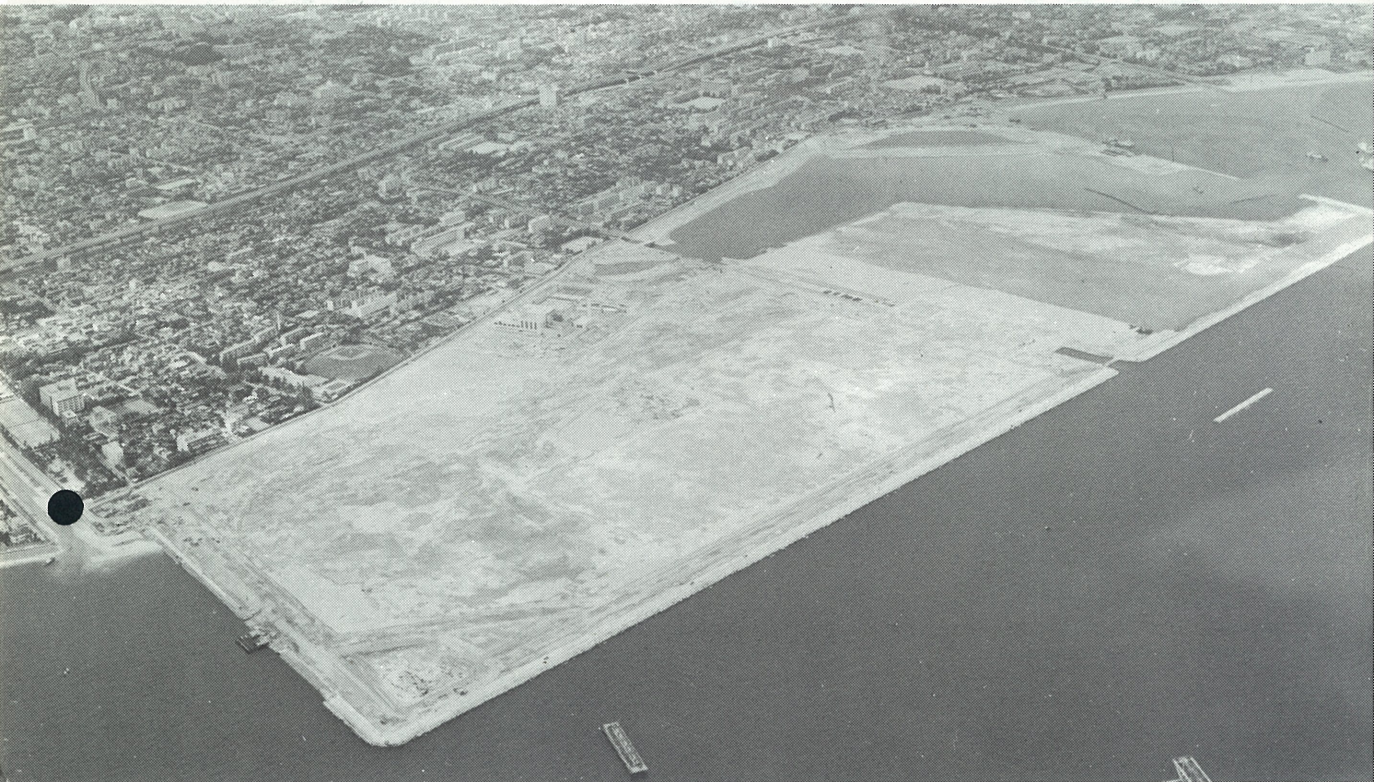
每学期発行



あすの芦屋

□まちづくり計画のあらまし

(その4)



埋立地ができると市の商業地図も変わっていくでしょう

芦屋市は、明治三十八年、阪神電車が開通するまでは、阪神芦屋駅付近の芦屋川扇状地を中心に住宅が建ち始めるまでは、ほとんど農村ばかりでした。当時は、耕地は、三百ヘクタール、農家は、数百戸もありました。その後、大正、昭和にかけて宅地の開発が行なわれ、大正八年から十一年にかけて、十二回ほど耕地整理が行なわれ、宅地が造られ、農地は、しだいにへっていきました。昭和四十五年の国勢調査では、農業をして

いる人は、百七十三人で仕事をしている人全体の〇・七％にすぎません。

芦屋市は、住宅都市です。しかし、工業もわずかながらあり、食糧品、せんいなど市民生活と関係の深いもののほか、金属、機械、化学工業などもあります。いずれも、規模の小さなものがほとんどです。

このように、芦屋市は、市民のほとんどは、大阪や神戸にしようサラリーマンで、まさに七万人の消費者が住んでいるまちといえます。

そのため、市では、消費者の生活を守るため、いろいろなことを行なっていますが、市民のみなさんも毎日の買物に気を付けていただくことが必要です。

芦屋の地は、美しい景色、あたたかい気候のところですが、昔から、多くのひとたちが、ゆききしたため、多くの伝説や、史跡などがあります。また、六甲山は、変化に富んだ地形で、自然の観光地となっています。

今回は、芦屋の産業、消費者行政、観光の問題を取りあげます。

商業

芦屋市は、大阪や神戸などの商業都市の間にあつて、住宅地として大きくなってきたため、市内の産業は、日常の消費生活に関係のある産業やサービスがおもなものです。市民の多くは、仕事の場所を市外にもつていきます。そのうえ交通の便がよく大阪や神戸へ買物に出かける人が多く、商業活動は、あまり活発では

今後は、便利で住みよいまちにしていくために、みなさんのほしい品物やサービスを行なう市場や商店をうまく配置していくいっぽう、経営を新しく上手にしていく必要があります。

そのためには、まず、国鉄芦屋駅のまわりにある市場や商店街を中心にして、市の中心的な商業地にしていくとともに、私鉄の各駅付近の商業地も、その地域の特色に合った店や



市場

なく、おもに日用品を扱う店が大部分です。このため、高級な品物を中心に、約半分は、市外で買物をしており、その割合も、少しずつふえてきました。

市場にしていくことにしています。商業経営の近代化のためには、経営の状態や、商店街の状況を調査したり、また、経営をうまく行なうためのお金をかしていくようにしてい

きます。

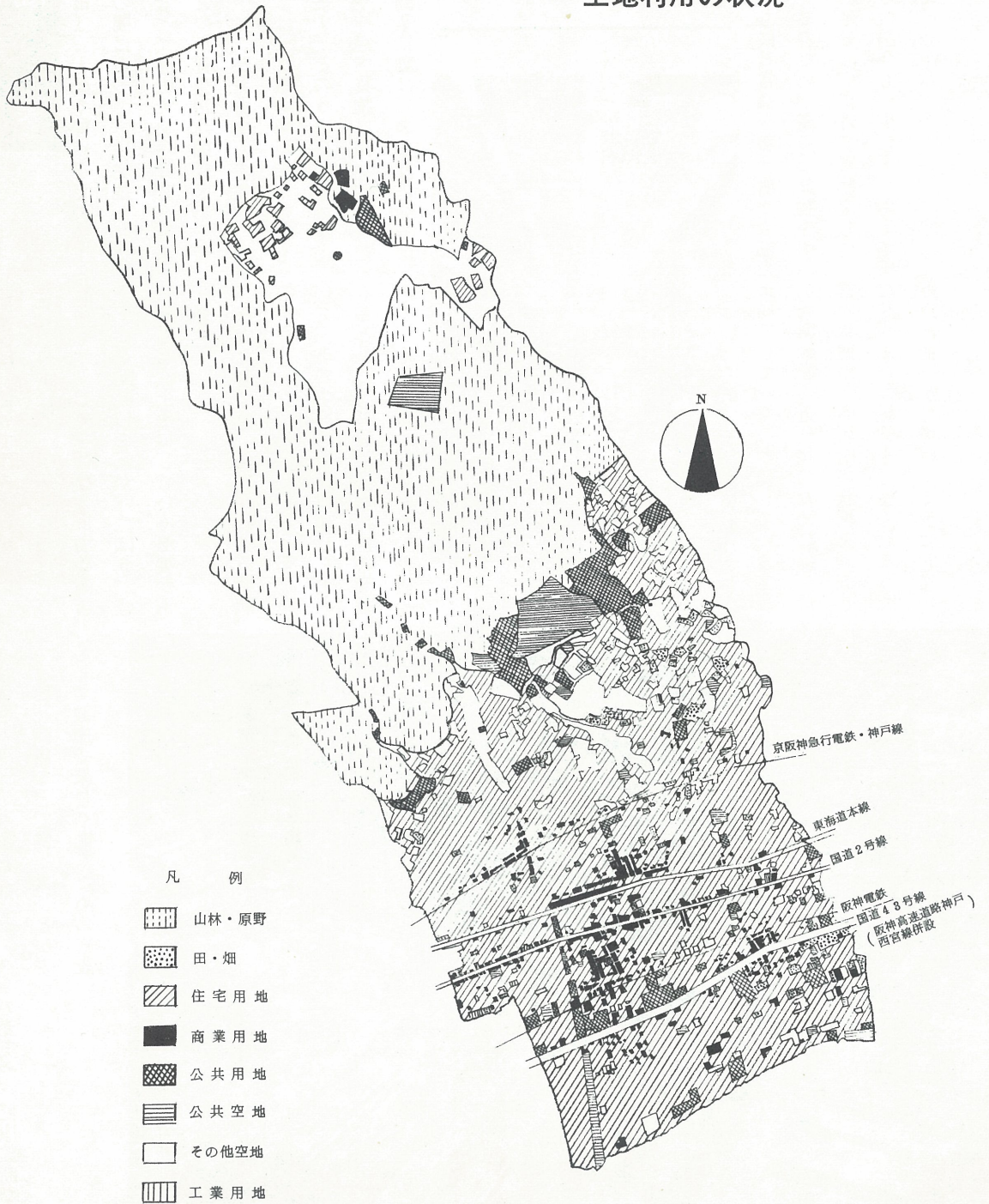
また、商店などで働く人びとが安心して健康で楽しく働くための施設

の充実や、健康診断などを行なっていくきます。



市の中心国鉄芦屋駅周辺

土地利用の状況



農業

芦屋市における農地は、今、約十
八ヘクタールで、住宅地の増加に
つれて、毎年減ってきています。

前は、米の生産が多かったのです
が、これからは、野菜とか花、果物
などを主とした農業へもっていくこ
とを考えています。

市では、農地を持っているかたが
たのご協力をお願いして、できるだ
け買い取り、公園にしたり、「市民の
農園」にすることを考えています。

「市民の農園」は、ことしから始
める予定で、一か所千平方メートルの農地
を四か所、四千平方メートルを借り上げた
り、買ったたりして、一区画約十平方
メートルに区切って、使ってもらうことに



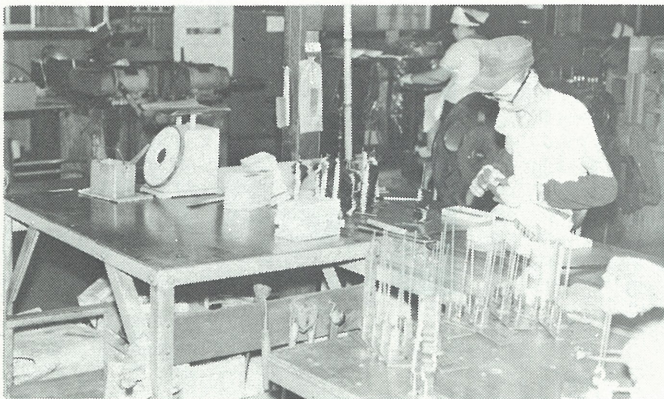
芦屋に残っている農地

しています。

これによって、おとなには、生活
にうるおいや楽しみを、子どもたち
には、いきものがどのようにして大
きくなっていくかという実物教育の
場になるでしょう。

工業

芦屋市における工業関係の事業所



工場（カミソリの製造）

は、六十一ありますが、その規模は
小さく、働いている人が五十人以上
の工場は一つだけです。

すでにある工場は、住宅環境を悪
くしないよう指導や監督を強めると
ともに、公害を少しでもなくするよ
うに設備の改造や改修を行なうこと
ができるよう必要なお金をお世話を
していきます。

なお、新しい工場は、つくらせな
い考えです。

消費者行政

ここ十数年来、急速に技術が進み
大量生産、大量消費の時代を迎えま
した。その結果、合成せいやいろ
んな耐久消費財、インスタント食品
がはんらんしています。それにとも
なつてわたしたちの生活の内容も
変化し豊かになってきました。いっ
ぱう、いろんな商品の中には、安全
や健康を害するものもでてきており
ます。



共同購入に力を入れるお母さんたち

「賢い消費者」になる
うとがんばるお母さん



このためには、わたくしたちは、正しい科学的知識を身につけ、「賢い消費者」、「強い消費者」にならなければなりません。

市では、市民のかたがたの生活内容の充実、向上をお助けするため、いろんな情報を集めたり、配布したり、学習会を開いたりしています。

また一般市民の中から「消費者モニ

ター」になっていただき、衣、食、住の情報など消費生活についての感想や苦情をよせていただき、それを業者へ伝えたりして、製品の改善に役立っています。さらに今後は、消費生活上のいろいろな要望や希望を集め、それをみなさんにお知らせする組織をつくって、より安全で豊かな生活をしていただくよう考えています。

芦屋市は、地形や地質が複雑で阪急芦屋川駅の北方の高座川にかかる高座の滝や芦屋ロックガーデン、奥池一帯など自然的な観光の場所があります。また、古歌で有名な在原業平の別荘の跡、阿保親王の墓、会下山の遺跡、金津山古墳などの文化財があります。

このように、山の自然、文化財を気軽に訪れることができるように、ハイキングコースを整えたり、観光についてのパンフレットをつくっていきます。また、国内や海外の観光

観光



ぬえ塚



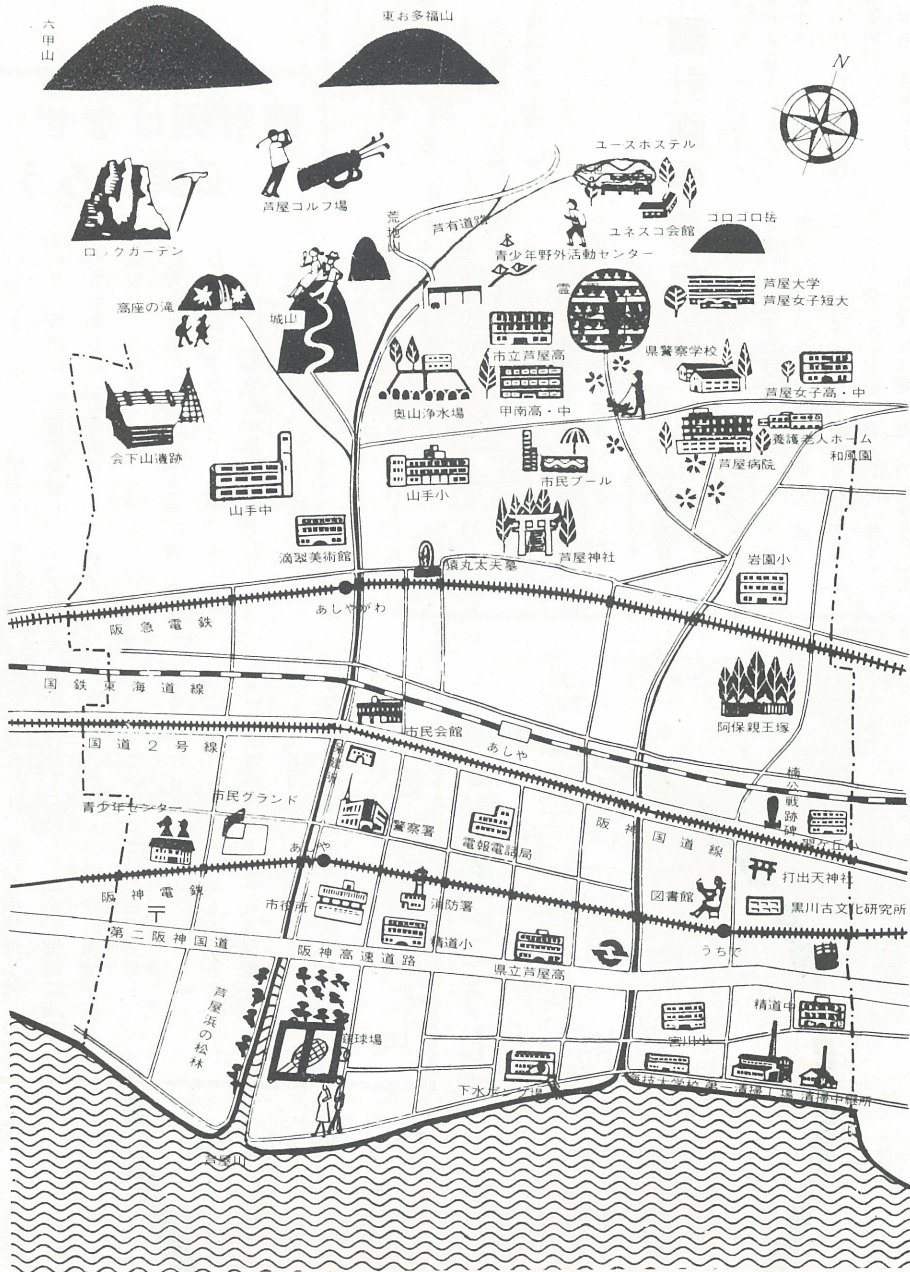
ロックガーデン



会下山（えげのやま）遺跡

についての情報を集めたり提供していくことを考えています。

芦屋市観光案内図



市内の観光めぐりをしましょう
 また文化財などをたいせつにしよう

■計画はなぜ必要だろうか■

わたくしたち日本人は、戦後の苦しい中からたち上がり、いっしょうけんめい働いてきました。そして昭和三十年代にはいり、経済は、急速に発展し、たべものや衣服もしいに豊かになり、また、電気製品、自動車などがどんどんわたくしたちの生活の中にはいりこみ、物の面ではたしかに豊かになりました。いっぽう、まちは工場や人が集まりすぎたりしていろいろな問題がでてきました。

すなわち、道路、公園、下水道とかいったみんなが共同で使う施設の整備がたいへんたちおくれ、そのため交通事故、公害などわたくしたちの安全や健康に直接影響を与えたり、身の回りの環境が悪くなってきたことは、毎日経験しているところです。

このようないまわたくしたちがかかえている問題や将来予想される問題を「むだ」、「むり」、「むら」なくひとつひとつ計画的に解決していかなければなりません。

そのためにもどうしても計画が必要です。

■計画はこうして

■つくられた■

まちづくりの計画は、市民ひとりひとりのものです。市民の要望、意見、考え方などをじゅうぶんにとり入れる必要があります。このため市では、「世論調査」や市民との懇談会も開きました。また、専門的な立場からの助言、意見を聞くため、大学の先生がたの協力もいただきました。

計画は、このようにいろいろな人びとの参加と努力、くふうの結果できあがったものですので、みんなができるだけ理解し、実行できるようにしていきたいものです。

▼わたくしたちひとりひとは、将来こんな人になりたいとか、こんなことをやろうとか、それぞれ目標をもって生活しています。

これと同じように、七万市民の住む芦屋市という地域社会にも目標が必要です。地域社会の目標は、人にとえれば、心と体や育ってきたその人の環境とをよく考えるのと同じように、まちの性格やまわりの状況をもとにしてさらに、将来

■計画のねらい

するかをきめるものです。

うけるお金にはかぎりがあります。いっぽうでは、あれもしたい、これもしたいときがありませぬ。そのため、ご家庭では、このやりくりで頭を痛めておられると思います。

これと同じように、市のしごともかざられたお金の中で何を先にやっていくかを決める必要があります。

このように計画は、将来の目標を定めるものです。

▼みなさんのおとうさんやおかあさんが会社で働いて、もらう給料や、商売でも

このように計画は、先手をうっているためのものです。